

—実 施 結 果—

1. 実証実験概要

樟葉駅前広場における、「ほこみち制度」の本格導入に向け、持続可能な賑わいを創出する利活用及び占有者による日常管理の可能性や効果を確認し、効果的な利便増進誘導区域の設定や公募占用指針の策定に繋げることを目的として実施。

(1) 実施場所



(2) 実施事業者

樟葉駅前広場活性化協議会

※枚方市歩行者利便増進道路占用予定者選定委員会で選定

(3) 実施期間

令和6年5月18日（土）～6月16日（日）

令和6年6月22日（土）～7月21日（日）

（※6月17日（月）～21日（金）は芝生養生期間とし除く）

(4) 実施内容

①持続可能な賑わいを創出する利活用

休日におけるイベント実施、平日においてキッチンカーやベンチなどを設置

②占有者による日常管理

広場の日常清掃、イベント利用による芝生広場への影響を記録

2. 実証実験の実施状況

(1) 持続可能な賑わいの創出

①休日利用

「Wonder Happiness PICNIC」（来場者数：約100名）

開催日時：5月19日（日）10:00～17:00 ※雨天のため14時終了

実施内容：子育て世代をターゲットに、仮設遊具や移動図書館など滞在しやすい空間の創出に加え、絵本の読み聞かせなどを実施。

【当日の様子】



「くるまとくらす。」（来場者数：約1,000名）

開催日時：6月8日（土）11:00～16:00

実施内容：2次占有者の主催として、車両展示のほかマルシェやパトカーとの撮影会など交通とライフスタイルを融合したイベントを実施。

【当日の様子】



「くずは夜市ヨイノクチ」（来場者数：7,768名）

開催日時：7月12日（金）・13日（土）16:00～21:00

実施内容：夕方から夜にかけて若年層をターゲットに、多文化交流をテーマにタイやベトナム料理や文化が楽しめる飲食系イベントを実施。

【当日の様子】



樟葉駅前広場（ハピネスパークKUZUHAガラススクエア及びその周辺部）における実証実験 —実 施 結 果—

②平日利用

・シェード及びベンチ、テーブル・イス、可動式遊具の設置

開催期間：5月20日（月）～24日（金）10:00～17:00

（※可動式遊具は23,24日のみ）

実施内容：芝生上にシェードやテーブル・イス、親子連れが気軽に遊べるよう可動式遊具を設置するなど、平日でも人々が滞留できる空間を創出した。

・キッチンカーの設置

開催期間：5月20日（月）～24日（金）10:00～17:00

7月1日（月）～7日（日）11:00～20:00

実施内容：芝生周辺にキッチンカーを設置し、歩行者の利便増進を図る取り組みを実施。

【取り組みの様子】



（2）占有者による日常管理

①広場清掃（通常時）

清掃内容：芝生広場内及びその周辺において、落ち葉・ごみ拾い等の簡易清掃を実施。

清掃頻度：1日2回（午前・午後1回ずつ）

②広場清掃（イベント時）

清掃内容：通常時に加え、タイル部分において、鳩の糞害対応として床面特別清掃（高圧洗浄＋ポリッシャー）を実施。

清掃頻度：5月19日（日）、7月12日（金）のイベント前日

【清掃状況】



③芝生管理

芝生への設置物ごとに、設置前後の状態管理・観測を実施。

養生囲い等が必要な損傷は見られなかったため、翌日より通常（開放）利用とした。

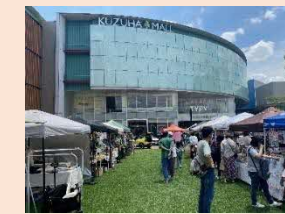
【管理状況】



設置中



設置後



設置中



設置後

3. 交通量調査・利用者アンケート

（1）交通量調査

イベント利用時における道路占用に伴う歩行者動線の交通量の変化を把握するために実施。

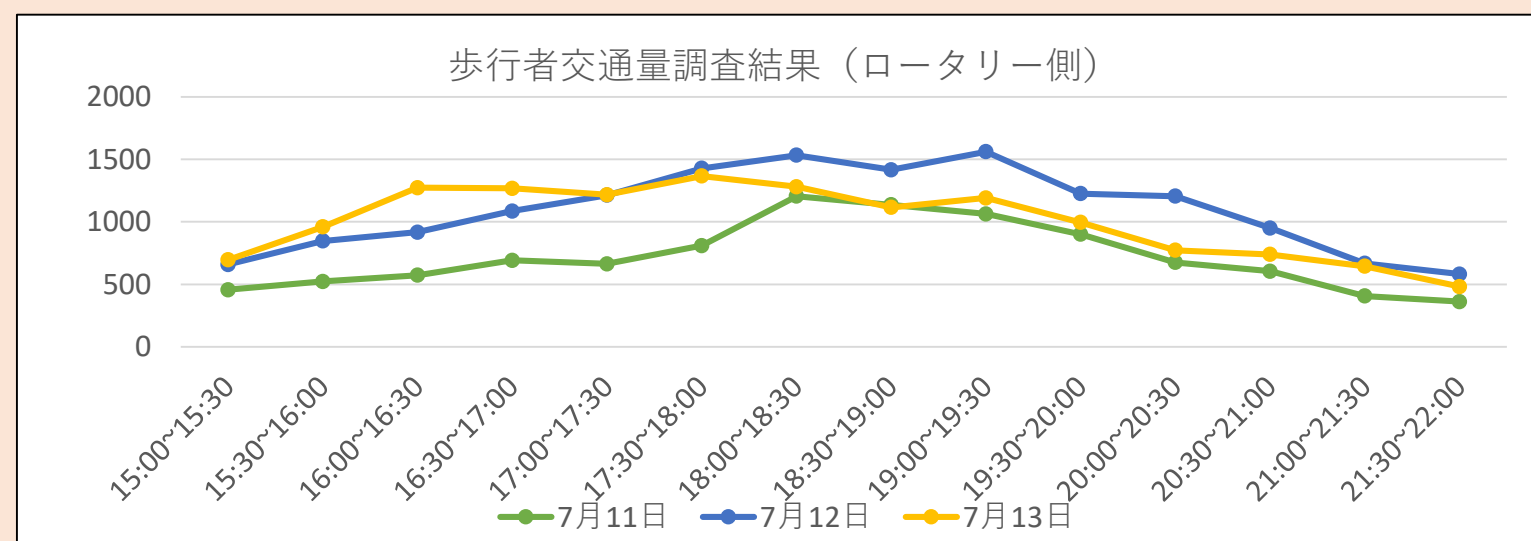
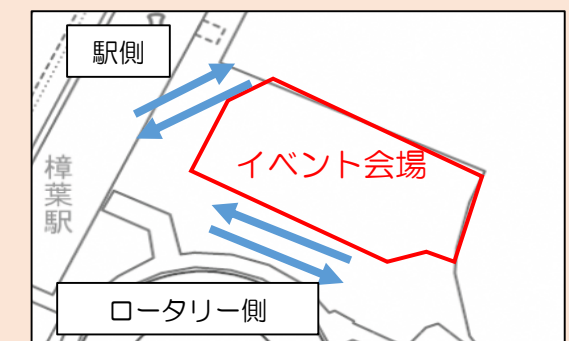
実施日：7月11日（木）平時

12日（金）イベント時

13日（土）イベント時

時間：15時～22時

場所：右図



測定した2箇所（ロータリー側・駅側）ではロータリー側の交通量が多いため、ロータリー側で比較することとした。

1日の合計値では7/12（金）が最も多く、15,296人となり、7/11（木）と比較して約1.5倍となった。また、ピーク時は19:00～19:30の1,562人であった。

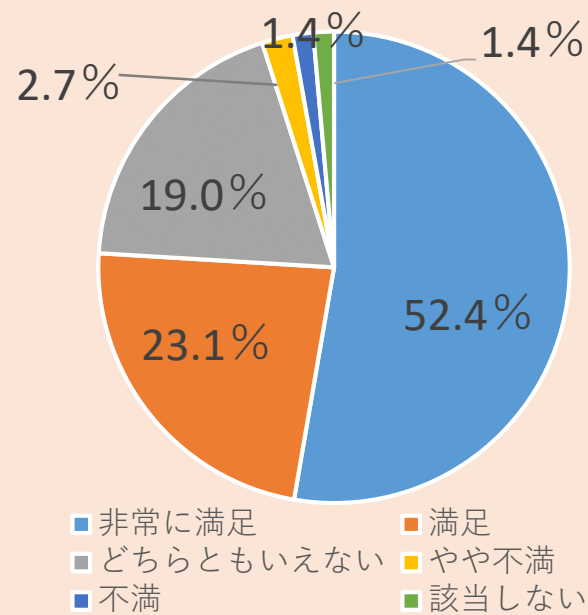
樟葉駅前広場（ハピネスパークKUZUHAガラススクエア及びその周辺部）における実証実験 —実 施 結 果—

（２）利用者アンケート

各イベント開催にあわせて、イベントの満足度や求める施設、期待するイベント、道路空間を活用した取り組みへの意識調査などを実施。

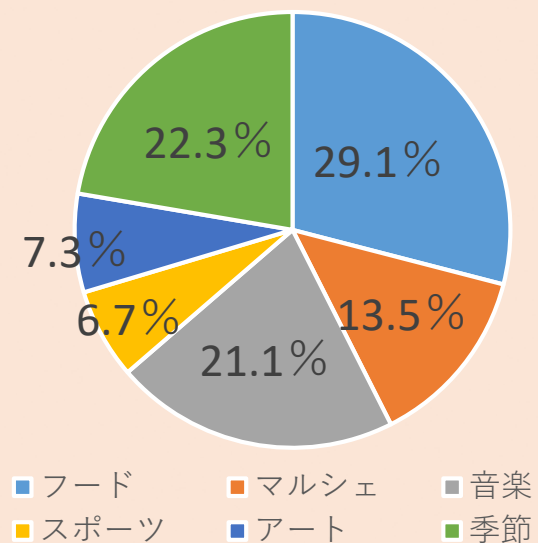
【イベント満足度】

非常に満足(52.4%)と満足(23.1%)を合わせると8割近い方が満足したという評価であった。



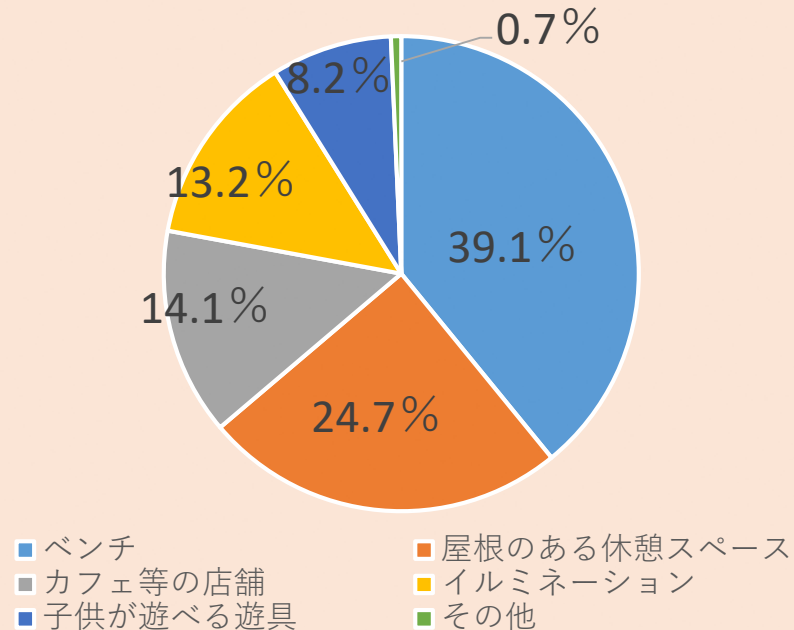
【駅前広場で期待するイベント】

フード・季節・音楽系イベントを期待する声が多かった。



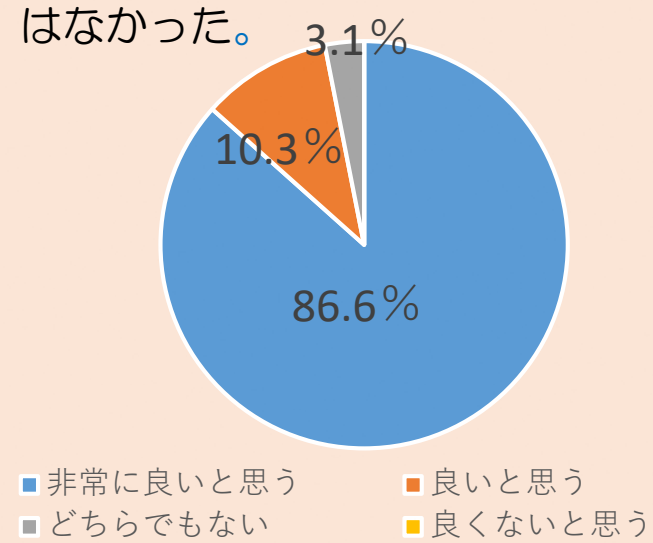
【イベントで求める施設】

ベンチ(39.1%)が最も多く、次に屋根のある休憩スペースを求める声が多かった。



【道路空間の活用について】

非常に良いと思う(86.6%)と良いと思う(10.3%)を合わせると9割以上が好意的な評価であり、否定的な意見はなかった。



4. 実証実験の総括

（１）持続可能な賑わいの創出

①休日利用

・「Wonder Happiness PICNIC」 5月19日(日)

近隣の子育て世代のファミリーが多く来場し、芝生上にて子どもが遊べる可動式遊具や枚方市で活動をしている方による絵本の読み聞かせ、パフォーマーによるショー等を楽しむ姿が見られ、賑わい創出に寄与できたと考えている。特に遊具の人气が高く、芝生上に設置することで子どもたちの目にとまり、滞在するきっかけになることが分かった。また、屋根付きベンチ等では、キッチンカーで購入した食べ物を食べる姿も見られ、駅前広場の利用シーンをイメージできたほか、ファニチャーの必要性も確認することができた。

・「くるまとくらす。」 6月8日(土)

マルシェブースは地元作家による人気のハンドメイドマルシェ、枚方市のゴルフ場が運営するパターゴルフ体験会など、枚方市に関わる方々が出店していたほか、交通に関わる車とライフスタイルの融合によるイベントを行った。枚方市でも大規模なイベント実績のある関西ぱどが利用してくれたことで、地域の賑わいに大きく貢献したと言える。

・「くずは夜市ヨイノクチ」 7月12日(金)・13日(土)

近隣の飲食店や物作りに携わる方が出店いただけたことで枚方界隈のお店の魅力を発信することができた。また、仕事帰りや買い物ついでの方などのご利用が多くみられたほか、大学生などの若者も一定数見られたことで、利用者ターゲットの広さとポテンシャルを感じることができた。

②平日利用

平日ではシェード内でくつろぐ学生がいるなど、利便増進に対する効果があった。可動式遊具を置く場合、置かない場合で芝生に滞在する人数・時間が大きく変わったため、遊具を設置することで芝生利用者の利便が増進することが判明したほか、キッチンカーについては、芝生利用者・滞在者よりも、駅から帰宅する歩行者の需要が高く、歩行者に対する利便が増進する結果となった。

樟葉駅前広場（ハピネスパークKUZUHAグラススクエア及びその周辺部）における実証実験 —実 施 結 果—

（２）占用者による日常管理

鳩の糞害が広場の簡易清掃では除去できないため、イベントごとに機材を使用した床面清掃を行い負担となった。
芝生への影響については、重量物の場合に跡やくぼみが見られたが、数日で回復した。一定期間設置する場合においても、配置換えすることで影響は無く、実施期間を通して設置物による損傷は見受けられなかった。一方、イベント時に通路として設けた範囲の損傷が目立ったことから、今後、通行動線を１箇所に集中させないよう工夫が必要である。



（３）実施事業者からの主な課題

- ・イベントごとに機材を使った床面特別清掃を行っているため負担増につながっている。また、芝生上の鳩の糞は対処できていないことも課題としてあげられる。芝生利用者やイベント参加者からの鳩の糞に対しての意見も多数いただいている。
- ・イベント時以外は機材を使った床面特別清掃を行っていないため、糞がたまってしまい、芝生利用者の減少につながっている。
- ・芝生維持管理を管理業者と占用者で分けると、責任所在が不明確。
- ・関係法令等を遵守していないパフォーマーの広場利用への対応。

5. 市の評価

（１）持続可能な賑わいの創出

・各イベントを通じて、子育て世代が多く来場し、小さな子供たちが芝生上で遊ぶ姿や、仕事帰りや買い物ついでに来場される方、学生などの若者が楽しむ姿が見られ、「ほこみち制度」の活用による賑わい創出の可能性が確認された。

・以前は掘りこみ構造であった広場に芝生を設置し、広い平場スペースとしたことで、イベント内容のバリエーションが増え、高い満足度に繋がったと考える。

（２）占用者による日常管理

- ・現在の状況では、鳩の糞害による負担が大きいことから、占用者へ求める維持管理内容について検討する必要がある。
- ・芝生への影響については、重量物の設置箇所や通路として設けた範囲に影響が見られたことから、設置条件を検討する必要がある。
- ・芝生維持管理について、管理責任が明確となるような仕組みを検討する必要がある。
- ・関係法令等を遵守した個人利用が行えるよう配慮する必要がある。

（３）歩行者動線への影響

- ・ピーク時は19:00～19:30の1,562人で、1分あたり52人となったことから、下表のとおりサービス水準を示す評価はA（自由歩行）となり、歩行者の安全かつ円滑な通行に支障が無かったことが確認された。

交通量 (人/分)	ロータリー側 有効幅員 (m)	交通量 (人/m・分)	水準
52	8.5	6.1	A

【 7/12（金）ロータリー側の様子】



評価		交通量 (人/m・分)
A	自由歩行	0～27
B	やや制約	27～51
C	やや困難	51～71
D	困難	71～87
E	ほとんど不可能	87～100

（参考）「大規模開発地区関連交通計画マニュアル」のサービス水準

（４）今後について

- ・これらの実施結果を踏まえ、効果的な利便増進誘導区域の設定や公募占用指針の策定を行っていく。